

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表 の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の 名称	概 要
1 (著書) 小児看護事典	共著	2007年4月	日本小児看護学会監修・編集、へるす出版 pp.693-694	著書全体の概要:小児看護学に深く結び付いている語彙約1000語について説明されている。 総頁数:902頁 著者: <u>山道(梅田)弘子</u> ・中村由美子 担当部分の概要:「ひとり親家族」に関する定義、特徴、ひとり親家族への支援等を説明した。
2 (学術論文) 乳幼児を育てる共働き夫婦の育児における協働の構成因子	単著	2018年1月	母性衛生 58(4) pp.541-548	保育園に通う乳幼児を育児中の共働き夫婦を対象に質問紙調査を実施した。育児の協働について探索的因子分析を行い、育児の協働の構成因子として、「相談と共有」「公平性の調整」「相手からの気づかい」「効率性の追求」「相手からの制御」が見いだされた。 総頁数:8頁 著者: <u>梅田弘子</u>
3 乳幼児を育てる共働き家庭の家族機能の特徴—夫婦それぞれの評価に着目して—	共著	2017年3月	広島国際大学看護学ジャーナル 14(1) pp.57-67	保育園に通う乳幼児を育児中の共働き夫婦を対象に調査を実施した結果、妻が夫よりも家族機能の重要性を高く認識し、家族機能充足度が低かった。妻の時間的余裕と夫の家事・育児への参画の必要性が示唆された。 総頁数:11頁 著者: <u>梅田弘子</u> ・島谷智彦・長沼貴美
4 大学生を対象とした親準備性教育への取り組み-「未来のパパママ講座」の開催	共著	2015年3月	広島国際大学看護学ジャーナル 12(1) pp.25-33	大学生を対象とした親準備性教育「未来のパパママ講座」を企画・開催した。講義、子育て親子とのふれあい体験、大学生同士のディスカッションを行った。学生は親の愛情や責任意識を感じ親になることについて具体的に考えた。 総頁数:9頁 著者: <u>梅田弘子</u> ・中岡博美・岡川春恵・三並めぐる・梅田貴士・島谷智彦
5 子どもの入院に付き添う母親の負担の特徴	単著	2011年3月	広島国際大学看護学ジャーナル 9(1), pp.45-52	小児科病棟に入院する児に付き添う母親の負担として【子どもが療養環境にいることに伴う負担】、【家族へ愛情を注げないことに伴う苦痛】、【看護師の技術・態度への不満】、【自宅と同様の生活が営めないことに伴う負担】、【母親が抱える自責の念と患児への愛情】、【医療従事者の説明不足】、【経済的負担】の7因子が抽出された。 総頁数:8頁 著者: <u>梅田弘子</u>
6 入院している子どもをもつ家族の特徴—家族機能とソーシャルサポートに焦点をあてて—	共著	2009年3月	日本ヒューマンケア学会誌 第2巻第1号 pp.41-48	入院中の子どもをもつ両親と養育期にある両親の自己効力感、QOL、家族機能を比較した結果、入院中の家族は、家族のコミュニケーションを高めることで対処しており、入院に付き添う母親は友人から普段と比べて情緒的サポートを有意に多く得ていた。 総頁数:8頁 著者: <u>梅田弘子</u> ・中村由美子・杉本晃子・内城絵美
7 (報告書) 1)未来の育メン育成プログラムの構築と拠点形成に関する研究、2012～2014年度日本学術振興会科学研究費補助金(挑戦的萌芽)研究成果報告書)	共著	2015年5月		大学生主体の育メン育成プログラムの構築・運営に取り組んだ。学生への調査や育児中の父親への取材、子育てに関する勉強会への参加を通して、大学生が将来の育児をイメージできるような活動を企画・運営した。地域における育MEN推進・啓発活動を展開した。